

「challenged を納税者にできる日本」

これが、私たちのキャッチフレーズ!!

社会福祉法人 プロップ・ステーション
理事長 竹中 ナミ



みなさん、こんにちは、ナミねえです!

challenged (チャレンジド) というのは「障害を持つ人」を表す新しい米語「the challenged」を語源とし、障害をマイナスとのみ捉えるのではなく、障害を持つゆえに体験する様々な事象を自分自身のため、あるいは社会のためポジティブに生かして行こうという想いを込め、プロップ・ステーションが提唱している呼称です。

プロップはコンピューターネットワークを活用してchallenged (チャレンジド：障害を持つ人) の自立と社会参画、とりわけ就労の促進を目標に活動を続けています。

障害を持つ人は日本において、チャンスより保護の必要な人たちと位置づけられてきました。でも今これは、本当に正しいのでしょうか?

超高齢化といわれる時代を迎え、高度なケアを必要とする人たちの人口比率が高まる中、働く意欲を持つ人が「チャレンジドであれ、女性であれ、高齢者であれ」就労のチャンスを得て、社会参画や納税というかたちで「支える側」に回ることの出来る社会システム。そういうシステムの構築が、これからの日本には必要なのではないでしょうか。とくにバリアーの大きいチャレンジドの就労における様々な障壁を取り除く知恵や努力は、チャレンジドのみならず、多くの人たちにとって、「自己実現可能な未来」への道を切り拓くのではないかと思います。

プロップでは、そのための手段としてコンピュータに着目し、「コンピューターネットワークを活用した在宅ワーク」を含む広範な就労の場の創出に向け、産・官・政・学・民・メディアのすべての分野の人たちと連携しながら、目標に向かって進んでいます。

生まれつきであれ、事故や病気や加齢が原因であれ、全ての人は「障害をもつこと」に無関係で生きて行くことはできません。ケアのひつようなときには適切なケアを、働く意欲のあるときには就労のチャンスが得られるという柔軟な社会システムを生み出すことこそが、今わたしたち一人一人に突きつけられた課題ではないかと思えます。

プロップは多くの人たちとともに、この課題に果敢に挑戦しています。

challenged (チャレンジド) というのは「障害を持つ人」を表す新しい米語「the challenged」を語源とし、「挑戦」という使命、課題あるいはチャンスを与えられた人という意味を持っています。障害をマイナスとのみ捉えるのではなく、障害を持つゆえに体験する様々な事象を自分自身のため、あるいは社会のためポジティブに生かして行こうという想いを込め、プロップは「チャレンジド」という呼称を提唱しています。

プロップの活動の詳細を、ぜひホームページでご覧ください。

- ホームページ <http://www.prop.or.jp/>
- お問い合わせE-mail prop@prop.or.jp

● 社会福祉法人 プロップ・ステーションについて

事業内容

● 相談事業と連絡調整

チャレンジドの自立と就労に関するご相談を E-mail、面談、電話、FAX などでお受けします。また、福祉関係団体、医療・リハビリ関係機関、行政、NPO、企業など、各機関との連絡調整をいたします。

プロップでは、面談や電話、FAX だけでなくインターネットの E-mail を活用しての「相談事業」も行っています。外出困難度の高いチャレンジドにとって、E-mail は「コミュニケーション」「社会参画」「在宅ワーク」など様々な場面で有効に活用され始めていますが、「相談事業」にも重要なツールとなっています。

相談機関に足を運ぶことなく、しかも、距離や時間を気にせずに自分の悩みや相談事を書き送ることのできる E-mail は特に、手紙、電話、FAX あるいは面談による相談に家族や第三者の手を借りなければならないチャレンジドの場合は、プライバシーを護りながら相談を持ちかけられるツールでもあります。

相談を受けたプロップも、緊急度の高い場合は「即刻」レスポンスを返すことも可能です。また、全盲や、聴覚障害のチャレンジドとも、点字や手話が出来なくてもコミュニケーションをとることができるなど、まさに「不可能を可能にする」E-mail といえるでしょう。

最近では、特に難しい操作をしなくても「ワープロ程度ができれば」E-mail が使えるパソコンも発売されており、チャレンジドの自己表現、自己実現へむけた第一歩を支援するのが E-mail といっても過言ではありません。

プロップへのご相談は、チャレンジドからだけでなく、家族、ボランティア、医療や教育機関に従事する方、企業の人事担当者のほか、福祉事務所・職安など行政機関からのご相談も増えています。私たちは、社福プロップの活動の柱である「相談事業」が、多くの方々にますます活用して戴けるよう、努力を続けたいと思います。

● 機関誌や図書発行

チャレンジドの編集員たちが、様々な情報を発信するため情報誌「flanker」を定期発行しています。紙媒体だけでなく、ホームページやビデオでも情報発信しています。

● コンピュータセミナーの開催

チャレンジドと高齢者を対象にしたセミナーを開催しています。チャレンジドが講師を務めるセミナーもあります。通って勉強する教室形式と、在宅で勉強するオンライン（インターネットを使う）形式があります。

● フォーラム、シンポジウムの開催

産官学民の広範な人たちが集う「Challenged Japan Forum」を中心に、自立と社会参画と就労に関するフォーラムやシンポジウムを開催しています。

● 在宅ワーク推進に関する事業

チャレンジドが誇りを持って働けるよう、産・官・学からの仕事をコーディネートする、インターメディアリー機能をはたします。

沿革

1991年 5月	チャレンジドの自立支援組織プロップ・ステーション設立準備委員会発足。	1999年 4月	社会福祉法人化記念シンポジウム開催。後援会発足。
1991年 11月	パソコン通信局プロップ・ネットを運用開始。	1999年 8月	第5回チャレンジド・ジャパン・フォーラム in 宮城を仙台で開催。
1992年 4月	全国の重度障害者を対象にチャレンジドの就労意識アンケートを実施。大阪ボランティア協会内に事務所を移転し任意団体プロップ・ステーションとして活動開始。竹中ナミ、代表に就任。	1999年 10月	竹中ナミ「エイボン女性年度賞・教育賞」を受賞。
1992年 夏	上記、アンケートによりチャレンジドの就労意識とコンピュータへの期待感が高い(回答者の8割)という結果を受け、チャレンジドの就労に向けたコンピュータセミナーを開始。	2000年 1月	大阪府内の全養護学校の情報教育支援を受託。(2002年3月末まで)
1994年 7月26日	日本の福祉団体として始めてインターネットのドメイン取得。	2000年 5月	初めてのオリジナルCD-ROM「おもいおもいのe-レター」発行。
1995年 1月17日	阪神淡路大震災が起きる。コンピュータネットワークとインターネットの重要性を痛感。	2000年 8月	第6回チャレンジド・ジャパン・フォーラム2000日米会議を東京で開催。
1995年 春	パソコン通信局プロップ・ネットをインターネットに接続。	2001年 2月17日	坂口厚生労働大臣・北川三重県知事・竹中ナミ 座談会開催。 「すべての人が誇らしく生きられる「社会を語る」
1995年 12月	野村総合研究所とリモートワーク(在宅勤務)共同実験を開始。	2001年 4月	ホームページ上で、オンラインによる「チャレンジド在宅ワーク」のコーディネートを開始。
1996年 夏	第1回チャレンジド・ジャパン・フォーラムを東京で開催。	2001年 11月 1日	第7回チャレンジド・ジャパン・フォーラム(CJF)2001国際会議 in みえ(三重県 志摩スペイン村にて)開催。
1996年 11月	第2回チャレンジド・ジャパン・フォーラムを大阪で開催。	2002年 2月18日	女性議員政策提言協議会の中に「ユニバーサル社会の形成促進プロジェクト・チーム～チャレンジドを納税者にできる日本～」発足。(座長：野田聖子衆議院議員、副座長：浜四津敏子参議院議員)
1997年 1月	プロップ神戸プロジェクト開始。活動拠点が大阪と神戸に。	2002年 5月12日	(神戸市・プロップ共催) Let's ユニバーサルシティ K O B E 2002 開催。
1997年 7月	第3回チャレンジド・ジャパン・フォーラムを東京で開催。	2002年 8月27日	第8回 チャレンジド・ジャパン・フォーラム 2002 in いわて大会(岩手県 盛岡市にて)開催。
1997年 10月	インターネット上で、全国からの人が対象の翻訳セミナーを開始。	2002年 10月	竹中ナミ「総務大臣賞個人表彰」受賞。
1997年 11月	第33回全国身体障害者スポーツ大会の公式ホームページを制作。	2003年 8月21日	第9回チャレンジド・ジャパン・フォーラム 2003 国際会議 in ちば(幕張メッセにて) 開催。
1998年 8月	第4回チャレンジド・ジャパン・フォーラム国際会議を神戸で開催。	2004年 9月16日	Ac+C04(アック・ゼロヨン) (東京簡易保険(ゆうほうと)・簡易保険ホールにて) 開催。
1998年 9月 3日	コンピュータを活用して全国の障害者を支援する厚生大臣認可第2種社会福祉法人となる。	2005年 8月	第10回チャレンジド・ジャパン・フォーラム 神戸にて開催(予定)。

役員

理事長	竹中 ナミ	
常務理事	鈴木 重昭	
理事	成毛 眞	株式会社インスパイア 代表取締役社長
理事	金丸 恭文	フューチャーシステムコンサルティング株式会社 代表取締役社長
理事	永吉 一郎	株式会社神戸デジタル・ラボ 代表取締役社長
理事	西野 弘	サムハル社会福祉事業団 日本代表 / 株式会社プロシードCEO
評議員	手嶋 雅夫	ティー・アンド・ティー株式会社 代表取締役社長
評議員	安延 申	ウッドランド株式会社 代表取締役社長 / スタンフォード日本センター理事
評議員	清水 洋三	社団法人日本パーソナルコンピュータソフトウェア協会顧問
評議員	松田 圭市	伊藤忠テクノサイエンス株式会社 広島支店長
評議員	高山 耕一	貴味蛸経営
評議員	高田 恵太郎	株式会社神戸商工貿易センター 神戸ファッションマート事業本部長
評議員	森井 章二	神戸空港ターミナル株式会社 代表取締役社長
監事	岡本 正平	兵庫県社会福祉協議会 総務部長
監事	尾崎 力	株式会社関西マガジンセンター 代表取締役社長
後援会長	金子 郁容	慶應義塾大学 大学院総合政策学部 教授
後援会副会長	中野 秀男	大阪市立大学 学術情報総合センター副所長

支援者のご紹介

「私たちはプロップ・ステーションの活動に賛同し、支援しています。」
あなたも ぜひプロップの輪に!

(敬称略：五十音順)



浅野 史郎
宮城県知事



麻生 太郎
総務大臣



石川 嘉延
静岡県知事



井戸 敏三
兵庫県知事



上野 千鶴子
社会学者



牛尾 治朗
ウシオ電機(株) 取締役会長



大熊 由紀子
大阪大学大学院 人間科学研究科教授



太田 房江
大阪府知事



金子 郁容
慶応義塾大学 大学院教授
プロップ・ステーション後援会会長



金丸 恭文
フューチャーシステムコンサルティング(株) 代表取締役社長
プロップ・ステーション理事



川勝 平太
国際日本文化研究センター 教授



川上 哲郎
住友電気工業(株) 相談役
元関西経済連合会会長